石櫻新聞

発行所
盛岡市仁王田圃
岩手高等学校
岩手中学校
出版委員会新聞部
責任者　高橋純一
印刷所
岩手日報社

三十周年記念

大文化祭開かる

雨に観客の出足不調

恒例の文化祭は、十一月十、十一の両日にわたって開かれた。今年は創立三十周年記念文化祭として行われ、各部とも全力をあげて催したが、あいにくの雨で観覧者の出足は近年にないほど悪かった。

まず一日目は、学校長やP・T・A会長の挨拶があり、その後我校第五回卒業生熊谷竜男氏と、第十回卒業生の栃内松四郎氏の『思い出を語る』と題された講演があり、我々にとって大変有意義なお話をしていただいた。その後、弁論大会があり十二時半頃に午前中の行事は終了した。午後から映画の会が催された。一方各部の会場では全く観覧者が無かったが、午後三時頃からようやく来はじめた。

二日目の十一日は、前の晩からの雨がやまず、各教室は非常に静かであったが、講堂では演劇部による劇二つに英会話部員による英語劇や音楽部の合唱などが行われた。午後からはようやく一般観覧者も多くなり、そちこちに、催しものを熱心に見また質問をしている情景がみられた。

次に各部の催しものをみてみよう。まず第一番目の部屋は書道部で、ここでは様々の大会の入選作品など出しており『岩中、岩高生は字が上手です』などの投書があった。次に『千年前の太陽族』などとかいたものをかかげた郷土研究部も面白く、次のP、F、Cは毎年のことながら、大変きれいであり、説明も一生懸命であった。写真展もなかなか傑作が多かった。国語出版は啄木の自筆ノートや『あなたはドライ?ウエット?』など大変人気があったようだ。J・R・Cもよく世界の絵を集めており、次の絵画展もすばらしかった。下において、映画展、生物班、図書などの人気も相当なものであり事実、よく研究していた。次の化学班は色々の実験をしており、ラジオ班や地学班も様々めづらしいものを出していた。

こうして各部の日頃の研究の成果を一目でみることが出来たのである。

行事予定

十二月二十四日……冬休み開始
十二月三十一日……前理事長墓参
一月一日……祝賀式
一月二十一日……授業開始
一月三十一日……予餞会

論説

校風刷新のために

◎何はともあれ十一月六日付の岩手日報紙の記事程、我々にとってショッキングなものはなかった。もっとも日報紙の記事には、事実と異なる点があり、関係者某君には気の毒な点もあった。当然の事ながら、某君は校名を汚した事を謝して自ら退校していった。今更某君を責めるのではないが、あの種不詳事に本校が関係しようと、誰が想像し得たろう。正に校史三十年中最大の汚点だった。

人の噂も何日とやらで、この事もいつか世人の記憶からは消えて行くであろう。だが我ら岩中高生が忘却しさるは何時のことだろうか。事は一千名中唯一人の過失、だがこの唯一人が常に問題なのだ。我々は当事者の退学で事が済むなどと簡単に考えてはいけない。事は全校の問題である筈だ。皆我が事として厳しい反省の鞭を当てるべきだろう。慢然と無自覚反省を続ける限り、事故は絶えない。

三田義正翁は白河以北一山百文の東北人評に奮起して、人物養成の宿願を持たれた。〃人材、人材、人材を作ろう〃との翁の火のような熱願の結晶として生れたのが本校ではなかったか。人間を尊重し又人からも尊敬され信頼される人間の養成、これが翁の素志であった筈である。この翁の素志が今、本校にどの様に生かされているだろうか。人間尊重の精神なくして何の文化祭ぞや、学校長の話が身にしみる。

◎文化祭における栃内松四郎、熊谷竜男両先輩の講演は実に面白く有益であった。創立時代の我らが先輩達には、何か筋金みたいなものがあったらしい。頼るべき先輩も拠るべき伝統もないところに、先輩達はパイオニア・スピリットを燃したのだ。質実剛健の気風のもとに不屈の石桜精神を磨いたのだ。校歴すでに三十年、二代目の我々は先輩の遺風に何を加うべきであろうか。

◎校風刷新の気運が動いて来た、どうもこのままではいけないのだ学校側では、中、高分離のガイダンス計画を発表したし、又生活委員会を中心とした動きもある様だ結構なことであり何とか物にしたい。ただこの際注意すべきは我々はあくまで受身であってはならないということだ。全員が本気にならねばならぬ。規律のことは生活委員会に任しておくだけでは何の効も上らない。事ある毎に生活委員会が矢面に立たされがちだが生活委員を責めるより、むしろ皆の反省不足こそが挙げられるべきださて校風刷新の具体策だが、つまりは生徒心得の完全実施ということではなかろうか。日常の細いことの確実な実行だ。

――襟章はついてるか、ボタンは外れてないか。ポケット手のまま師長に対してないか。舎内での脱帽を励行しているか、内外のズックを区別してるか。廊下の歩行は品位を保ってるか、柵から出入りしてないか……とまずこんなところが出来なくては……。ところで実は筆者も怪しい。しかし自己に克ってこんなところが出来ぬようでは校風刷新も遠い話というものだ。（C）

☆ ☆ ☆

写真に結ぶ一千里

しのぶ草分けの頃

この程学校側で本校初代理事長三田義正氏、初代校長鈴木卓苗氏二代校長栃内曽次郎氏、三代校長佐々木哲郎氏の写真を作り、その御子息である鈴木大典氏、栃内吉彦氏本校の創立以来より今日までいろいろお世話下さっておられる関壮二氏の三氏に送ったところそのお返事が送られて来た。

鈴木大典氏は東京都練馬区におすまいで、都立新宿高校の教師をしておられ、また栃内吉彦氏は北海道大学農学部々長をしておられる。関壮二氏は下関市におすまいである。以下に掲ぐるは校長先生宛の手紙の全文。

（鈴木大典氏より）

拝復　御書面拝見致しました。この度はわざわざ貴校歴代校長の写真を御恵贈下され御厚志の程誠にありがたく厚く御礼申上げます亡父が草分けをした学校が既に三十年の伝統を築いて来たことを知り今更のごとく驚きとうれしさの気持を禁じ得ませんでした。『岩中』と呼んでいた当時の思い出は今もなお色々と思い出されますが御地を去ってから既に二十余年にもなりますので今日の御校の姿は想像ができません。終戦後一度だったか佐々木前校長を御自宅にお許ねしたことがありました。

小生も教職（都立新宿高等学校勤務）にある身ですので夏休みにはいつも郷土へ旅行したいものだと考えながら仲々その余裕もできず未だ実現せずに終っております。そのうちに是非宿望を達したいものと考えております。小生は小学三、四年頃から盛岡中学（現在の盛岡一高?）の五年の初めまで在学しましたので御地は小生にとっては第二の郷里とも感ぜられる懐しい土地でございます。

私共は御地を去りまして後呉、広島に転じ、昭和十八年に父は死去し、終戦の前の年に一家当地に移りましたので幸い原爆の犠牲にならずに済みました。現在母、妻子供三人、弟一人の七人家族皆健在でございます。

まずはとりあえず、御礼、近況お知らせまで、未筆ながら貴校の御発展と先生の御健康をお祈り申上げます。（封書）

（栃内吉彦氏より）

本日石田君御来訪下されまして鈴木さん、佐々木さん、および父の写真御届け下さいました、誠にありがたく厚く御礼申上げます。御手紙もありがたく拝誦致しました。

御健祥を祈り上げます（葉書）

（関壮二氏より）

拝啓、秋冷の候となりましたが愈々御清適大慶に存じます。陳ば過日は、石桜御恵贈に預り有難く拝読致しました。私も一度創立者三田義正氏のことを書いて見度いと思っております。岩手高等学校の隆昌に付けても過般佐々木哲郎名誉校長の御来訪を受け、過去のいろいろな話に花が咲き大変愉快に感じました。佐々木先生も老来益々元気のよう見受けました。

不取敢右御礼まで　匆々（葉書）

以上原文通り

輝く連続入賞

県下高校新聞コンクール

去る十月一日より一週間第九回全国新聞週間に因んで記念行事の一つとして、岩手日報主催の県下高校、中学校新聞コンクールが催された。本校は昨年のコンクールにコンクール最高の名誉、最優秀賞に選出されたことは、また記憶に新しいが、今年もまた、本紙第三十九号、四十号を応募した。応募校は県下高校十二校であったが三日、日報社編集局で審査の結果昨年に引続き最優秀賞に入賞した『囲み物などをあしらってキメの細かい品の良い紙面である。記事の長さもほど良く、カットや写真の扱いも素人ばなれしている。写真のトリミングには神経を使いムダが少ない』（日報十月七日掲載）との評であった。この栄えある二年連続優秀校に選出されたことによって他方面から多くの賞讃を受け、部員はなお一層の研究を重ねることを決意している。

表彰式は去る十月九日午後三時半より日報社会議室で行われ、本校からは西在家先生、高橋純一君佐藤勝久君、中村光紀君が出席。渡辺編集局次長の挨拶に始まり、審査経過報告の後、次長の手で賞状及び賞品が授与された。続いて各校応募作品の批評会があって、長所短所などが話されたが、全般にみだしが貧弱であること、企画の斬新さの欠乏など、また各校のレベルが向上し、優劣がつけにくいなどがあげられていた。

前期石桜会功労賞授与さる

石桜会功労賞第三五号、第三六号は角掛勝彦君（高三、生徒会長）、高橋純一君（高三、出版委員長）の両君にきまり去る十月十六日にその受賞式が行われた。

岩大鈴木学長の講演会行わる

生徒の教養向上のため学校では広く知名人を招いて講演していただく方針で、去る十一月五日にその最初の試みとして、岩手大学の鈴木学長を招いて本校講堂で行われた、聴衆は中三以上の生徒で、まず学校長の鈴木氏の招介があった後、講演が行なわれた、鈴木学長はドイツ留学のときの豊富な経験にもとずいて人間について語られた。

なお今後とも続けてこれらの講演会は行われる筈。

校外短信

▽或会社の入社試験

某会社の採用試験に『喧嘩をするか』という問題が出たという。受験者の答は『する』『しない』と答えた者チョン。『しかけられたらする』と自衛権を主張した者は無事入社との由。『気にくわない奴はブンナグルなんて答える短気なお方は危険千万ですよ』三年生諸君の入社心得の一つ。

―大津東高新聞経由―

▽親切な泥棒君

某学校の職員室に入ったドロチャン、机の引出しから金ばかりは一円も残さず取って黒板にキレイな字で『金は忘れずにもって帰って下さいよ。また検査に来ますからね』

―奈高新聞経由―

▽採業料支払いの秘決

Y県某高校のT君、どうせ出すなら少しでも自分のにしたら得と採業料を毎日定期貯金にして、その抽籤の金をポケットマネーと考えて家でもらったらすぐ貯金してもう五ケ月も滞納していたとは、先生あとで分かって嘆くことしきり。

―桜陵学園新聞経由―

▽隣席にも御注意あれ

S県の某校の〇〇君、映画館に入りポケットからタバコなるものを取り出したがマッチがない、そこで隣席の紳士に火を拝借したまではよかったが、その紳士が新任教官であったとは、オシャカ様でも……。翌日、呼出しを喰らったが、その教官曰く『暗い中でマッチに照らし出された君の顔は印象的だったよ』

―高田高校新聞経由―

▽お席はあちら

大阪府立N高の夜汽車の情景。列車が岐阜を出る頃に中学生の一団がのり込んで来て、車内は大混雑。M科生は前列車、E、F科生は後方車に乗っていたが、たまりかねた後方車の要領よき某君車内の客に向って一席『前の列車に乗っている学生は次の駅で下車しますから皆さんは楽にすわれるでしよう』これを聞いた一般客、中学生を信用して移動しはじめた『知らぬが仏』前方車のM科生『なんでこんなにこむんやろう』と首をかしげれば、だまされたと気のつかないお客さん『なんや、こいつらいつになっても降れへん……』

花カジカ、エゾハヤ発見さる

既に〃岩手高校生物班のお手柄〃として朝日新聞に報道された花カジカとエゾハヤの発見は生物班の熱心な手によって岩洞ダムと久慈川で発見された。（なお、この二種は北海道、樺太以外にはいないものとされていた。）

これまで、本校生物班は部長を初め諸班員が魚類の研究をしており、変った魚類を発見するのも珍しくはなかったが、この花カジカとエゾハヤの発見は、北海道、樺太以外にはいないものとされていた魚類である為興味深いものがある。

花カジカは今年生物班の諸生徒が九戸郡久慈川上流に魚類の採集に行った時捕えたもので普通のカジカよりやや大きく、本土のカジカに比べて腹ビレ、エラブタの形が異り、口も大きく鋭い歯を持っている。

エゾハヤはハヤの一種であって昨年先輩の中西君が岩洞ダム付近の川で捕え、今年また生物班の一班員が同所で捕えた。これは普通のハヤより一周り程小さく、腹ビレウロコの数等が異る。また本土のハヤは繁殖期に入ると横腹に三本の紅色の筋が出るが、エゾハヤは繁殖期に入ってもこのような特色を表さない。

また東京資源研究所では『この二種は生物分布上、これまで本土にいないとされていたが、生物分布図をぬりかえねばならない。』との手紙を寄せている。

断言

いつの間にか、廊下にきれいな（?）花が飾られた。青少年赤十字の提供とか。きたない校舎には安い花も結構目立つもの。

× × ×

文化の日の不詳事とか。誤報もあったが……。ああ忘れよう、忘れまい。

× × ×

新を入れるロープの輪、いくらか広くなったかな?

× × ×

石桜新聞が便所の中に入っていたという。

県下最優秀賞もツボの中とは！まさに『悲劇』です。―可愛がってやって下さい。

× × ×

考査のときの監督官とは、ストーブに新をくべる小使なり。

× × ×

入学、就職試験を間近かにひかえ、準備に大わらわの高三諸君に捧ぐ……。

『一寸ノ光陰軽ンズベカラズ』

お家族揃って楽しめる
日本一の
盛岡東映
正月映画

剣雄・右太衛門のお家芸！
旗本退屈男　謎の紅蓮塔

大友・橋蔵・ひばりの
大江戸喧嘩纏

総天然色イーストマン東映カラー
大東映の全スタア総動員！
任侠清水港

総天然色アグファ東映カラー
新諸国物語　七つの誓い
錦之助・千代之介・橋蔵・扇太郎・波島・千原

千恵蔵のGメン颯爽登場！
恐怖の空中殺人

時計と眼鏡
品質と価格
絶対信用を重んずる
山屋時計店
盛岡市[illegible]町　TEL 115

帽子専門の店
帽子・襟章・各種取揃え
お待ち致しております
三栄帽子店
盛岡市仁王通り
電話 [illegible]

本店
支店
最新式機械完備
メガネのデパート
水晶堂
本店
支店
電話 盛岡 六三二 六八八 一四七〇

多彩文化祭の回顧
説明に一工夫を

文化の日より一週間おくれた十一月十、十一日の両日にわたり恒例の文化祭が行われた。雨天のジンクスは今年も破れず、昨年同様小雨もようの天候。それに冷気もひとしを。だが悪天ものかわ沈滞の本校文化活動に一聖火を点ずべく十六会場十八教室にわたって今年度文化部の成果が展示されにぎにぎしくも華やかな饗宴の幕をひらいた。

◇書道展◇

ニクラスを使用した書道展は展示室のトップ。我こそは三筆・三蹟なりと、腕を奮って書いた作品その数、上幅、色紙、短冊、扇面合わせて二百余点。書体も隷書、草書、楷書、行書と種々様々。どれを見ても皆、達筆であるような錯覚を感じさせられる。総評としては例年並。装飾の方は日本風のものだけに、室内に一寸した生花等を据えたら、より調和しただろう。とは一父兄の感想。鬼が笑うかもしれないが、来年は如何？

◇郷土研究展◇

〃二千年前の太陽の季節〃と奇妙な看板を掲げ、客足を引こうとする商魂？もいささか涙ぐましい。それもそのはず、活動が不活発という所からクラブに格下げされ、柴内先生以下数人の部員という衰退ぶり、従って文化祭に至っても考古学という性質と相まって地味な存在となるわけである。出品は岩手県に関するものとあって、古銭、藩札、県内出土品等と、一応興味深い。昨年の35ミリや写真のようなものがないのはもの足りない。

◇PFC展◇

まずその豪華さには驚く。世界七十八ヵ国を相手に、広く各国の友と国際平和を目的に、また国内の友と交換文通しているクラブだけあって目を見張るばかりである。展示品は地球儀、優勝杯を中心に万国旗をひらめかせ、郵便友の会三信条を筆頭に世界の切手集、海外文通、国内文通、海外絵葉書国内絵葉書の展示、北海道アイヌの熊祭りの説明（資料は文通によって得る）また本校クラブ員と各地の文通友達の協力を得ての各地温度しらべを展示。この常例を異にした各地温度しらべは、北は北海道、南は沖縄まで主な都市の気温をグラフに表わしたもので、一寸趣向が変っていて面白い。

室内は明るく流れわたる『愛の翼』のメロディーと係生徒の熱心な説明の声が交錯し、明るい和やかな雰囲気がかもし出され、観客はしばし手の行き届いた展示品に見とれていた。

◇国語出版◇

国語出版は二一Aの教室に陣取った。中に入ってまずどうしても殺風景になりがちなのを『タテ』で補って苦心のあとが見られ、右側から県歌人鳥瞰図、県俳人鳥瞰図があり、その下にそれらの人達に関係している雑誌『明星』『ホトトギス』等があって、石川啄木の自筆ノート『暇な時』もあり有名な『東海の小島の磯の――』の歌も見られた。しかしあまり見る人がいないのが残念。

次に『本校三十年のあゆみ』で歴代の校長先生の写真や創立当時の絵葉書などが掲示されてあって、学校の歴史が一目でわかる様になっていて一般の好評をはくした。又風変りな性格乾湿測度表なるものもあり、先日、本校生徒からアンケートを取った結果が『ウエット』『ドライ』で現わされていた。ここでは自分の性格を試しているものも多い。

それから例年の全国高校七〇余校による新聞展、そのとなりに新聞コンクール本年度最優秀の賞状と賞品の花びんが飾られてあった。全体的にすっきりとしていて感じのよい室であった。ただ少し説明が不十分であったと思う。

◇ラジオ◇

お次ぎは文化祭初参加のラジオ班、誕生は今年四月、従って班員も僅少、だがやることは当年一歳とはみえぬ充実振りだ。出品点は短波受信機、HI・FIアスプ、インタフオーン等。観客の大部は班員の熱心な説明に耳を傾けていた。また、このラジオ班で一番人気を呼んだのは、何といっても今流行のLPコンサートであったろう。スピーカーの前におかれた椅子に座って、名曲あるいはジャズに耳を傾ける者が少なくなかった。ただ隣室えは大分迷惑をかけたようだが、来年は防音装置に万全を期せられたい。

◇青少年赤十字◇

二、三年前から青少年赤十字はあったが今までは存在すらもわからなかった。今年になって活動も見うけられ、文化祭における展示も今度が始めてであった。

室は出版委員会室で、中に入ってまず窓が一つしかないせいか暗く感じる、装飾は普通並であった。展示物は主に親善のためアメリカ、ドイツ、フランス、ギリシャ、カナダ、イタリー等から送られて来た絵画でそのほかに赤十字のマーク、赤十字の歴史の説明など。又パンフレットなどにより青少年赤十字の一般への理解に努めていた。

全体的に言って展示物は配置が悪くまとまらず、見づらかった。又説明はよくしていて親切であった。

◇生物展◇

階下一Bの教室に飾りつけられた生物展は、日頃の研究、採集標本等をズラリと列べ、中でも一段と眼を引くのはクロサンショウウオの発生研究で、これは全国で二度目の発生研究であり神経胚から卵化後約一ヶ月半の観察、その他イモリの発生観察、高松ノ池生物相調査、モリアオガエルの発生観察、岩手県産魚類、鳥類の展示、顕微鏡観察と卵割の検鏡、中津川魚相調査。質問は大学生より一般及び高校生に多く、御婦人や御老人は展示物に興味があるように見うけられた。装飾にも無駄がなく、生物班らしい趣向で相当一般うけがしたようだ。

◇絵画展◇

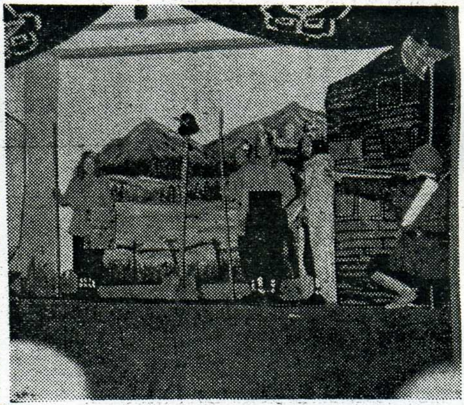
二B、二Cの教室に飾りつけられたのは絵画展。

赤、青、黄と鮮やかな、調和のとれた三色のパレットが入口のところについているなどはさすがである。

部屋の中は他のところと違って静寂そのもの、何かしら芸術的雰囲気といったものに人を誘いこむ。

四方に張られた黒、茶の幕、そこにくっきりと浮ぶ絵、絵。ざっと数えても六〇点はあろうと思われる多数の出品。

それぞれ趣を異にした風景、静物、ピカソ画。それに窓際に置いてあるギリシャふうの純白な彫刻が一段と部屋の気をひきしめていた。



◇写真展◇

展示室は例年通り薄暗く、少々入り難いといった風である。又通路の便のためか素通りして行く者も多く、六十点余の作品は客待ち顔であった。

今回のこの写真展は室内の暗さに対応する明るい感じの作品が少なく、昨年のものと比較出来る作品もなく、落着いた作品が数点あるのみ。しかし部員の努力の跡が見えたようだ。

◇化学展◇

化学班中学生の部では、大豆から油脂をとる方法、淡赤色をつけた噴水の原理などの実験をみせてくれた。

次に高校の方に行くと、何やら化学薬品の異臭がただよう中に、最初に目につくのは、ケミカルガーデン（化学の庭）と題するものであった。これは化学の力によってビーカー内に海底の庭のような景色を現出するもので、これは出来上るのに一昼夜かかるとのこと前夜からネジリ鉢巻でこしらえたらしい。また、石炭酸合成膨脂（ベークライト）の製造の研究に於てはベークライトがこんなに簡単に出来るとは思わなかったと驚く父兄の声もきかれた。

それから活火山の模型に化学薬品で噴出させて見せる所は大変な人気を得ておった。

その他葉緑素、ブドー糖、石鹸、染色の製造研究、アミノ酸醤油の製造過程などがありアミノ酸醤油は本物とほとんど同じに製造出来たが、味の方は他少おちるようであった。そしてこの化学班の研究は日常生活に関係あることに於ては喜ばれたが、説明はやや難解、一般人にも解る説明法に一工夫が望まれる。

◇図書展◇

図書の展示は一Aの教室。これはまた何人がかりで書いたのかと思われる程の文学の行列、そして絵が部屋中の壁にぎっしりと貼ってある。部屋の中では沢山の来観者が、係の生徒の説明を熱心に聞いている。

分担説明も徹底していて『ここからはあの人から』となかなか能率的？。特製の棒で指しながらの説明もまたさわやかなもの。

『今年度ベストセラー』『時事に関する書』など興味深々、内容豊富な展覧会。中央に椅子とテーブルがあり映画雑誌がのっているなど用意周到なものだ。

◇映画展◇

一Cの教室に飾りつけられたのは映画展。

例年の如く四方を暗幕で囲んで映画館さながらの雰囲気。それにレコードコンサートが一段と人気を呼んでいた。講堂から出て来た人はまず第一に映画展に入り展示をジロジロとながめて歩くだけ、それで苦心の世論調査や年表等の質問もなく部員はがっかり、一方レコードプレーヤーの囲りだけは満員御礼の札が下りそうだった。

◇気象班◇

気象班では、周囲に天気図や模型を配し、中央に気象の各種測定器具を置くという趣向。雷の模型が電気でジージー火花を散らしている所は観覧者に人気があったようだ。

この部は上級生のいない特異な部であるがまとまっていて将来がたのしめる。

◇地学班◇

ラジオ班の隣の一年甲組にかまえた地学班は、班員こそは少いが熱の入れ方はたいしたもの。

班員の採集した珍名の陳列、又壁には苦心の説明記事、海低の形態、火山の生態などなかなかの念の入れかたであった。又、来客えの応対も堂に入っていた。ただ説明者が不在でお客さんをす通りさした。部門もあり、その点は自戒を要すというもの。

◇山岳展◇

まず室に入ると例年の如くテントが真中にでんと据えてあった。しかし白樺の木や山岳用具らがなく何んだか物足りない気がした。そのかわり四方には部員が征服？した山などの写真が掲げてあってなかなか部員の活躍ぶりを示してくれた。また初の試みとして、岩手山、早池峯山等の裏岩手の山々を写した写真数百枚をスライド映画で紹介してくれたが、それが天然色でなかなかの好評であった。

活気を呈した本会場

◇弁論大会◇

文化祭弁論の部は、第一日目の午前中、先輩の熊谷竜男氏、栃内松四郎氏の講演の後で行われた。まず、弁論部員菊地光男君の基準弁論があり、続いて競弁に入ったが、大会前、三人が急に不参加ということになり、結局七人の弁士によって行われた。場内も全くうちとけており、ヤジもなかなかとんでいた。なお成績は次の通りである。

一位　三〇　佐藤　和平
守るべきことは守れ
二位　一丙　大川　和彦
恐るべき原爆と戦争
三位　二A　中村　光紀
師弟愛の追求

◇演劇◇

つぎに演劇は、二日目の午前と午後の二回にわたって行われた演劇部員の熱演によって大変楽しく観られた。午後からはあいにくの雨のため観客は実に少なく、なんとなくはりがなかった様に見えた。なおこれと一しょに英会話部の部員による英語劇も行われた。

演劇部による劇
『灰色の中で』
○キャスト
父……………………台　博克
息子順一……………堀合　誠
〃　顕二……………斎藤正太郎
村の青年……………横矢　裕

『彦一ばなし』
○キャスト
彦　一………………小笠原和民
殿　様………………佐々木重夫
天　狗………………米内沢利夫

英会話部による英語劇は
『ウイリアム・テル』
○キャスト
ウイリアムテル……菅原　国嘉
その息子……………熊谷　正利
ゲスラー（代官）小笠原明徳
けらいA……………阿部　久知
B……………………吉田　亨
ガードA……………村田　仁志
B……………………藤原　博

◇音楽◇

音楽会は二日目、演劇の合間に行われたが、中学校は二重唱、高校は部員二十数名で過日行われた県下高校音楽会に出した〃子守歌〃〃かくれんぼ〃の二曲を合唱し又四重唱〃野ばら〃〃いざや我らの〃の二曲を歌い、なかなかの好演であった。

又特別に二丁の教室を設けて、レコードコンサートとやらを試みたが、場所が悪かったせいか客足振わず、折角名曲であったのにさぞかし部員は残念であったことだろう。

☆　☆　☆

一般の声

今年もまた雨が降ってしまった客足は二日間を通じて千二、三百名（？）、それも一般父兄よりも高校生、女学生（？）、大学生の方が多いようだった、以下につづるは来客の声。

☆型にはまり過ぎて変化が見られない。展示内容に対しては☆PFCはすばらしく努力のあとが見られた☆化学班は殺風景であった

豪華絢爛の正月番組！

28日―2日
問答無用！素早い者が生き残る拳銃の掟！
必殺の一弾　グレン・フォード主演
絶対無比の西部劇！ランドルフ・スコット
復讐に来た男

3日―9日
今流行の主題歌に乗っての西部活劇篇！
誇り高き男　ロバート・ライアン主演
目には目、歯には歯を！マリナ・ヴラディ主演
不良の掟

市内随一のシネマスコープ劇場　国劇

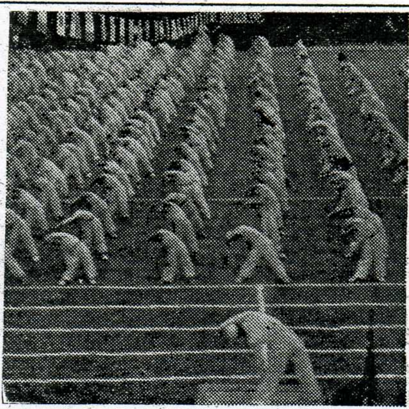
年賀状に書初めに
筆・墨・半紙・雅箋紙・取揃え
一般文具　木津屋文具店
盛岡市材木町
デンワ　二三五・二四〇

記念品贈答品には是非
中屋万年筆店
彫刻サービス致します
盛岡市大通りTEL2762

26日より正月2日迄
総天然色・日本語版
大自然を背景に生きとし生けるものの
争闘と神秘を描く万人必見驚異の巨篇
動物の世界
総天然色・西部劇
デイール・ロバートスン主演
争闘の丘
賀正　中劇

秋季大運動会行わる

紫軍堂々の六連勝



恒例の秋季大運動会は去る九月二十九日、本校校庭において華々しく開催された。

朝方どんよりと曇り、危ぶまれた当日の天気も、昼過ぎからは、からりと晴れ渡った秋晴れの良い天気、絶好の運動会日和となった。

八時十分、それぞれ趣向をこらし、飾りつけられたアーチから純白の全生徒一千名が足並も軽く入場、本部席前に整列する。

先ず開会の宣言、続いて昨年度優勝の紫軍より優勝旗の返還があった。それに次いで校長の力強い激励の言葉があった後、全校生徒の『若い力』斉唱、元気一杯の唄声が四方の山にこだました。

競技は中学の百米レースを皮切りに各種目に白熱戦が展開された。林檎喰いでは思う通りに林檎に喰いつかれず、顔中びしょぬれになっての大奮戦、また三人四脚では、四つの足の調子が合わずスッテンコロリンの連続に爆笑の禍。

待望の盛岡一周競争は高一の斎藤忍君が高二、高三を抜いて堂々第一位を占めた。

元気一杯の力走もさることながら、太鼓を持ち出し、果ては踊りまでとび出す各軍の応援も、都市対抗さながらの見事なもの。

進行係その他の役員の献身で、午前の部は予定通りに終了した。

午後の部は名物仮装行列から。さすが名物、黒山の如くグラウンドをうめつくした観衆の見守るうちに行列は中一甲より堂々の行進『白鳥の湖』の如き優雅？なものがあるかと思うと、『野郎と女たち』の如き典型的アプレ型もある新劇、歌舞伎顔負けの粋な若衆の『あやめ踊り』、シネマスコープそこのけの大規模な『トロイのヘレン』、二等兵物語ならぬ『四等兵物語』など、爆笑と感嘆の中に仮装行列は終った。

『千五百米レース』より再び競技に入る。勇ましい中三の『棒倒し』、エッサエッサの名物『東海道レース』、市内の小、中、高、『招待リレー』、ラグビーボールに野球バットのコンビの職員レースがあり、石桜会各部リレーで競技は終った。

かくして運動会は終りを告げたのであるが、後半勢いを増した紫軍が、紅、白を抜いて堂々六連勝を成し遂げた。次に掲げるのは仮装行列の成績。

▽高校＝一位三A〃アラビアの幻想〃二位三C〃白鳥の湖〃三位二C〃あやめ踊り〃四位三B〃トロイのヘレン〃五位二A〃四国観光団〃

▽中学＝一位三丙〃学校生活十六年〃二位二甲〃さんさ踊り〃三位二丙〃人生の恋〃四位二乙〃四等兵物語〃五位三乙〃野郎と女たち〃

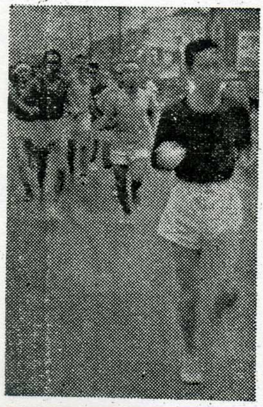
雨の中を力走

各学年とも記録更新さる

今年で第三回を迎えた校内クラス対抗ロードレースは、去る十月二十三日、折からの小雨をついて行われた。

当日は授業二時間の後、全生徒講堂に集り、諸注意を受け、校庭に集合した。正午、各学年別に次々とスタート。例年通りの雨降りの悪路を石桜精神を胸に力走した幸に昨年と同様、事故者がなく、午後一時終了。

また学年別優勝クラスおよび個人上位入賞者の表彰は、翌十一月十一日行われ、優勝クラスには賞状、上位入賞者には記念品が贈られた。成績は次の通り。



▽高校三年

❶	杉村　尚満	（C）	35分36秒
❷	工藤　強一	（C）	35分55秒
❸	磯崎　公一	（B）	36分53秒

▽高校二年

❶	鍋倉　新吉	（B）	24分44秒
❷	照井　逸郎	（A）	24分50秒
❸	城戸　孝彌	（B）	26分56秒

▽高校一年

❶	斎藤　忍	（B）	21分03秒
❷	佐々木一夫	（B）	23分01秒
❸	小笠原洋光	（B）	23分15秒

▽中学三年

❶	斎藤　守男	（甲）	22分45秒
❷	永井　幹造	（甲）	22分46秒
❸	阿部　紀夫	（甲）	22分47秒

▽中学二年

❶	沢田　直之	（丙）	22分41秒
❷	山走　一男	（丙）	23分20秒
❸	徳田　春男	（乙）	23分32秒

▽中学一年

❶	菊池　悦郎	（乙）	23分06秒
❷	瀬川　隆司	（甲）	23分15秒
❸	小林　隆	（丙）	23分15秒

学年別成績

▽高校三年	❶C組	❷A組	❸B組
▽高校二年	❶A組	❷B組	❸C組
▽高校一年	❶B組	❷C組	❸A組
▽中学三年	❶甲組	❷丁組	❸乙組
▽中学二年	❶甲組	❷丁組	❸丙組
▽中学一年	❶丙組	❷乙組	❸甲組

二年連続優勝なる

県下中学水泳大会

第九回岩手県中学校競泳大会兼第二回全日本中学校水泳通信競技大会は去る八月二十六日大船渡市営プールで行なわれた。

八時半から開会式が行なわれ、大会会長の挨拶に続いて審判長の注意があった後、前年度優勝、岩手中学校の優勝旗返還があってレースの火ぶたが切って落された。

自由型八百米に期待の本校阿部紀夫君が出場して岩手県、大会新で優勝し全国第七位であった。

成績は次ぎの通り。

▽男子自由形八百米決勝▽

❶	阿部紀夫	十一分二秒四（県新大会新、全国第七位）
❸	村上宏康	十四分十八秒〇

▽男子自由型四百米決勝▽

❶	杉村祐二	六分二秒四

▽男子自由形百米決勝▽

❻	伊勢沢正治	一分二十秒五

▽男子背泳百米決勝▽

❶	鎌田達郎	一分二十五秒八

▽男子バタフライ二百米決勝▽

❶	角掛哲也	三分二十三秒〇（岩手県中新）
❻	村井睦平	四分八秒〇

▽男子平泳二百米決勝▽

❶	小笹勝二	三分十秒三

▽男子八百米リレー決勝▽

❶	岩手中（阿部、村上、杉村、角掛）	十一分二十一秒六（岩手県中新、大会新）

▽総合

❶岩手中55点

恒例の校内体育大会開かる

各種目に熱戦展開

秋季校内体育大会が去る十月十五日から二十四日まで十日間に渡って行われた。

軟式野球、ソフトボール、籠球、庭球の四種目に於て各クラス、職員、寄宿舎の間に熱戦が繰拡げられ、軟式野球は三年T組、籠球は三年B組、ソフトボールは三年A組と三年甲組、庭球は職員チームと二年乙組がそれぞれ優勝を勝ち得た。以下はその成績である。

◇ソフトボールの部

第一回戦	三年乙組	5…3	二年乙組
	三年甲組	不戦勝	一年乙組
	三年丙組	10…1	一年甲組
	職員	不戦勝	寄宿舎
	二年甲組	5…0	一年丙組
第二回戦	三年乙組	5—3	三年甲組
	三年丁組	1—0	三年丙組
	職員	10—8	二年丙組
	二年丁組	1—0	二年甲組
準決勝	三年丁組	3—2	三年乙組
	職員	9—5	二年丁組
決勝	三年丁組	5—3	職員

◇軟式野球の部

第一回戦	三年B組	9…1	二年A組
	寄宿舎	9…3	一年A組
第二回戦	三年B組	2—1	三年A組
	三年C組	3—2	二年C組
	寄宿舎	5—4	一年C組
	二年B組	11—0	一年B組
準決勝	三年B組	3—2	三年C組
	二年B組	11—4	寄宿舎
決勝	三年B組	7—1	二年B組

◇籠球の部

（高校）

第一回戦	二年A組	42…14	一年C組
	一年B組	11…5	一年A組
	三年A組	24…13	二年C組
第二回戦	二年A組	50—13	一年B組
	三年B組	26—12	職員
	二年B組	23—13	寄宿舎
	三年A組	31—16	三年C組
準決勝	二年A組	45—8	三年B組
	三年A組	22—4	二年B組
決勝	三年A組	27—15	二年A組

（中学校）

第一回戦	二年丁組	16…10	二年甲組
	二年丙組	5…2	一年甲組
準決勝	三年甲組	16—6	二年丁組
	三年丁組	6—4	二年丙組
決勝	三年甲組	10—6	三年丁組

◇庭球の部

（高校）

第一回戦	三年C組	3…0	三年B組
	一年A組	2…0	寄宿舎
	二年B組	2…1	一年C組
第二回戦	三年C組	不戦勝	一年B組
	職員	2—0	二年A組
	二年B組	2—0	一年A組
	三年A組	3—0	二年C組
準決勝	職員	2—1	三年C組
	二年B組	2—1	三年A組
決勝	職員	2—0	二年B組

（中学校）

第一回戦	二年丙組	3…0	一年甲組
	二年甲組	不戦勝	三年乙組
準決勝	二年乙組	2—0	二年丙組
	二年甲組	2—0	三年丁組
決勝	二年乙組	2—0	二年甲組

一層の奮起を期待

送球部東北大会で準優勝

辛苦の三年、意気と体力を育成した結果、先に行われた県体で、宿望の東北大会出場権を得た送球部は、九月十五、十六の両日仙台市で行われた東北大会へ全校生徒の期待と声援に送られ、十四日午前五時元気に盛岡駅を後にした。

仙台到着、宿舎決定後、翌日の試合に備えるべく、練習場に行き各校選手に混り練習開始、一方、各校キャンプテンによる抽選会が行われ、その結果我校は一回戦不戦勝と決定した。次に戦績と試合概況を記す。

〔一回戦〕

抽選で決った通り、一回戦不戦勝のため、グランドで各校の試合を見て、各自のポジションを研究し、軽いトレーニングを行い、翌日の試合に備えた。

〔準決勝〕

十五日の準決勝は宮城県代表仙台高校を破った福島県代表の寒河高校と対戦、我校選手全員、日頃の練習の成果を発揮し、中里、宮野のシュートとバック陣の活躍で快勝し、二回戦をものにした。

	前半	後半	計
岩手高	5	3	8
寒河高	1	2	3

〔決勝〕

決勝戦は同日午後行われた。我校は一回戦仙台二高、二回戦で安積高を敗り、また先の県体で覇を競った同郷の盛岡一高と対戦した。県体では我校苦杯を喫したが、選手一同これをくつがえすべく、必勝を期して入場した。

午後二時十分、一高のスローオフで開始、ホワードの適確なパスワークよく交戦、またバックも敵の運行をよく防ぎ接戦した。しかし前半6対4とリードされた。

後半に入り、我校好調に試合を進め計6対6と同点に持ち込み、その後は双方得点なく延長戦に入るかに見えたが、終了三分前我校バックの反則でフリースローを取られ、これが決勝の一点となり、遂に7対6と優勝の夢を実現出来ずに一高の前に屈し、惜しくも第二位にとどまった。

岩手高6—7盛一高（前半4—6　後半2—1）

ラグビー部

東北大会に出場

第十一回国民体育大会、ラグビー競技大会、南、北東北地区予選兼東北高校ラグビー大会は去る九月二十一日、二十二日、二十三日の三日間にわたり福島県郡山市営開成山陸上競技場において十校百五十余名の参加のもとに行われた。

遠征になれていないせいか少々つかれていたが、第一回戦で相手東北の強豪青森商業と対戦した。十二時青森商業のキックオフで試合が始まり、前半五対〇後半十九対〇と惜しくも青森商業の前に敗れ去った。

戦績次の通り

青森商業24（5—0　19—0）0岩手高

☆日活正月興行LINE-UP☆
2日迄　若の花物語 ☆土俵の鬼　悲壮、若人の戦記 ◎人間魚雷出撃す
3日より　総天然色オールスタア ☆踊る太陽　美空ひばりの捕物帖 ◎鬼姫競艶録
9日より　近藤勇と桂小五郎 ☆竜虎の決戦　文化放送評判放送劇 ◎哀愁の園
15日より3日間　川上哲治物語 ☆背番号16　馬琴原作、波乱の大活劇 ◎里見八犬伝大会
19日より　石原慎太郎原作 ☆月蝕　金語楼の爆笑喜劇 ◎あゝ軍艦旗
暖房完備　盛岡日活劇場

D・P・E
岩淵カメラ店
モリオカザイモク町
TEL 七一六三

皆様のお写真は
是非当館へ！
にしき写真館
盛岡市菜園錦町二一
TEL 二〇九

12月15日より
歳末連合大売出し
（1月5日まで）
適当な正価!!
良品販売!!
これが当店のモツトーです
元旦午前1時まで・元旦開店
コクヨ紙製品・（教）ノート
各種和洋紙一般
小原商店精養堂
盛岡市仁王通り
モシモシ 185番オバラへ

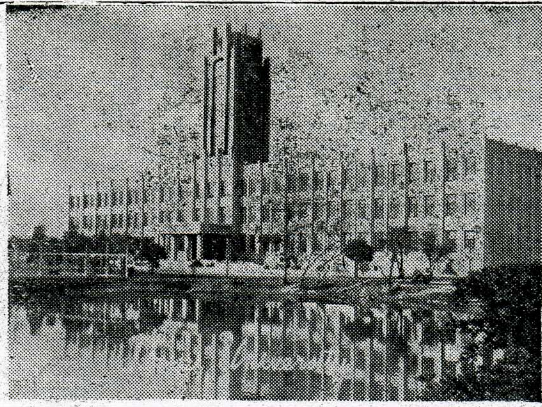
學

★★★★★★
学園紹介
★★★★★★

法政大学

法学部一年　菊池啓治

法政大学の創立は明治十二年の東京法学社に始まる。日本における私立法律学の濫觴である。翌年東京法学校と改称。明治二十二年東京仏学校と合同して和仏法律学校と改めて、三十六年の学校令の改正によって法政大学とした。新大学令によって法文学部、経済学部を設けた。その間、梅謙次郎、富政章両博士、松堂学長の思想哲学の各方面の特色ある学風は異色であり世人の記憶に新しい所である。



戦後二十四年新制大学に改編され、法文経を持って、二十五年工学部の設置、二十六年社会学部、さらに大学院も設置した。その間の卒業生五万余名、現在の学生総数は一万五千を数えている。

かくて創立以来七十余年を経た法政大学は、社会の速歩に即応して、学術、社会両面から広く我が国文化の進展に貢献するよう大内総長を中心として全学一団となっている。

次に本校正門際にある言葉をあげておくと

学而不思則罔
思而不学則殆

で、法政大学のモットーである。

本校学部は校舎を三つの地区に分離し、それぞれの特長、教育内容に適した事情のもとに独立している。川崎校舎、富士見町校舎、麻布校舎がそれである。川崎校舎は国電渋谷駅より、東横線急行で十五分という都心よりわずかに離れた地に相模平野をバックとして三万数有坪の校地に校舎および総合グランドがある。この川崎木月校舎は第一部（昼間）の法学部、文学部、経済学部、社会学部の一年新入生を迎える。で法、文、経社の新学生は始めの第一年間はこの川崎木月校舎で最初の一年を送る訳である。

この木月校舎での一年間の修養は勉学、体育の両面にわたって行われる。三万坪の校地に併置されている大学総合グランドを第一学生の学生は各自思い思いの運動種目を選択して、体位の向上を計り勉学する。なおこの校舎には、短期大学部（夜間）も設けられて勤労学徒の便を良くしている。法学、文学、経済学、社会学部の学生は二年間を木月校舎より、岡の上にある真白い富士見町校舎に移り二年、三年、四年の三ヵ年を、この校舎に送る。

一万余名の学生を収容する校舎と、二十万部を越える蔵書、さらに大学院研究施設、学生集会所、法政出版局、大原社会問題研究所等があり、学生に勉学へのより一層の啓発と学問の道を開拓すべく無限の刺激とを与えている。なおこの校舎は中央線飯田橋下車、富士を遠望することの出来る外濠公園に臨む地に林立している。

麻布工学部の学生は、旧中央労働学園の我国労働界に残る歴史的建物を中心とし、校舎で一、二、三、四年の学園生活を送る。

さて、話題転換。

法学部は法律学科と政治学科に分れている。法学部はその名の通り法学部を中心として誕生したのであって、我国法典界の由緒ある学部として名を鳴らしている。本学部はフランス法系統の学園として出発し我国法学界の祖ともいうべき梅謙次郎博士の学風は今もその香を受け継いでいる。この法学部も一部二部に分れて、同一教授がこれを交代指導に当っている。

文学部は哲学科、日本文学科、英文科、史学科、地学科、教育学科に分れている。文学部は大正の末、野上豊一、安倍能成両氏を中心として生れ、私辻哲郎、豊島与志雄、森田草平の諸氏等が初期の教授の中柱となっていた。本学部はその特殊性を表わし、三十有数余年の伝統を受け継いで自由濶達な学風を発揮して、卒業後の活動をも更に新しい分野を開拓している。なお哲学、日文、英文、日本史学、地理学の専攻の大学院も、修士課程には幾回かの卒業生を出し、博士課程も設置されている。

経済学部には、経済学科、商業学科がある。本学部も既に三十数年の歴史を有し、教養学部を除く約三千名の学生が収容されている学問、実践の両面に知識を備えた青年教育の輩出に全力を上げている。

社会学部は、一学部一科目に詳しいよりも、各分野に渡って総合的良く整理された判断と理解を有するのが時代に相応している。してその要求により、新たに新設された学部で、時代要求に応じ開拓した前途洋々の学部である。また本学部はその特異性を発揮して、他に見られないゼミナールを行い大きな特色となっている。

工学部は麻布校舎内にあり、戦時中に設立され、航空工業専門学部が戦後に改編され現在に至り、歴史は若くも、清新の、みなぎる学部である。大内総長は工学部の設置目的として法政大学が工学部を持っているのは、工学がそれ自身、近代工業を集めて出来ている学部であるからだけでない。法政大学の特に狙っている有用な人材実用的人物を作るのに、工学という学問が一番良いからだ、と言っているように、学理の研究に閉込もり、工業現場のない人に占められていることの意味においても、工学部の教授ならびに講師は工業の実際に携わった経験を豊富に持った人が沢山いる。工学部は基礎科学、一般工学、機械工学、電材工学、建設工学、工業経済学に分れている。

また法政大学は、通信教育学部もあり、働きながら学ぼうとしている者への大きな光明として、着実な発展を求めている。

再び話題転換。

大学教育は単なる職業教育ではないのであるから、科学的精神と豊かなる人間性に満ちた教授によって、広い学問と円満なる知識、文化、教養なみにいける所であり単なる職業材関に非ずということにも留意すべきではないだろうか。

【写真は木月教養部校舎】

寄稿

地域PTA

佐藤朗

学区制のない我が岩手中学、高等学校が地理的な事情や職業の関係でほとんどPTAの総会にも、又学級会にも出席出来ない父兄の為に毎年出張して開くPTAが本校独特の地域PTAである。

本年度は夏に日詰で、稗貫、紫波両郡下の父兄を対照に開き、父兄の出席率も八割以上の好成績で父兄に大変喜ばれたが、第二回は十二月九日岩手郡滝沢大釜地区の父兄の為に滝沢村篠木中学校で開いた。当日は猛吹雪で、その集りが心配であったが、定刻少しおくれて開かれた。学校側から山中校長をはじめ十五人の先生が折角の日曜も犠牲にして御協力下さり、役員側は工藤副会長に熊谷指導部長と私の三人、集る父兄五十人のうち四十余人には校長先生にも始めてお目にかかる父兄も多い様に見受けられた。

先ず熊谷指導部長のPTAとしての校内外の指導方針と実施情況を説明の後、会長司会席につき一般懇談にうつり地域部会の開催の趣旨を説明、校長は本校の設立の意義と教育方針についてのお話をした。最初のうちは皆が固くなり質問も出かねたが自然に心と心が通いはじめ、先ず第一問に応答、その後は次から次へと話は進む。マージャンの話、勉強と家事手伝の話など、思春期の子を持つ親の心配は山程あり、和気あいあいのうちに時は過ぎる。指導の先生方はその質問について学校の方針や指導方法を丁寧に説明して下さりこれにうなずくお母さん、意見をのべるお父さん、会場は一家の様な雰囲気にとけ合った。学校としては建学の精神である質実剛健にして信頼される社会人を育成するにあり、又PTAはその趣旨に協力し、よりよき環境を作る為に努力しておる事を知って戴く。

我々の現在の家庭生活に於て、親と子はややもすれば遊離する。即ち子は親を古いと云い、親は子をアプレだと云って接近しない。年令の差と思想的なギャップの外に親は子が自分の子であると同時に社会の子であることを忘れてはならない。親と子が一家内で常に一緒に楽しく語り合う事が絶対必要だ。

話は汽車通学生には指導者を選んで規律ある通学をさせて貰い度いとの希望も出る。懇談はいつ尽きるとも知れない盛況であったが正午で一般懇談は終り、午後は各担任の先生と父兄の個々面接でその日の会の仕上げを終り二時過ぎ閉会した。

冬の地域PTAは始めてであり、その効果を心配したが十二月九日は成功であったと思う。話はただそれだけであるが、私の云いたいことは、全部で五十人位しかない父兄の集会に十九人の人達が一日奉仕して下さったこの気持である。こんな事が他の学校にあるであろうか。この不言実行、身をもって実践しておられる先生方を持つ私達の子供は大変幸福だと私は感謝の念で一杯であった。これ即ち教育の根源である和であり愛である。やれ権利だ、義務だとやかましいこの頃、我が校の先生方の行動は心温まるものがある、父兄の皆さんと御協力下さった先生方の御多幸を祈りつつ筆を擱く。

十二月九日夜　（PTA会長）

共に手を取合って

県立盲学校から礼状

本校J・R・Cが先月全校によびかけて回収した古ハガキ三千枚が県支部の手を通じて盲学校におくられた。盲学校では点字練習用に使うそうで、練習用紙高値の折から非常に喜ばれた。盲校生から本校J・R・C宛に点字で礼文がおくられたが、次にその要旨をかかげる。

皆さんお元気ですか僕達毎日元気で勉強して居ります。皆さんから戴いた、ハガキに一枚一枚皆さんの親切な心が浮んで来ます。

私達盲人を親切にしてくださる事は、私達は心から感謝しております。有難とう御座居ました。それではこの辺で失礼します。

サヨウナラ

（小学部　二年　林晃）

今までは盲人と云えば、按摩だけしかできないやっかいものの様に思われて来ましたが、皆さんの様な方々の御理解と心温る厚意により社会的にも認められてきて我々は今では皆さんと手を取り合って社会のためにつくしたいと云う闘志に燃えております。

学ぶ事も出きない盲人が数多く居る現在において、我々は学問的にもめぐまれ、又あらゆる方面からの厚意を受けていることだけでも満足なのです。強いて云うならばこの様な未就学者も早く我々と共に学んでもらいたい。

唯それだけです。

そして我々も皆さんと共に救け合っていける日の来るのを願っております。

（高等部鍼灸科一年　高橋良己）

近代日本文学展開かる

去る十月十二日、十三日、十四日の三日間にわたり本校先輩の藤村圭秀（第六回卒業生）、吉田栄一（第七回卒業生）の両君の外に盛岡商高先輩佐藤実の三君によって構成されている『ボヘミアン詩社』の主催によって県商工会館ホールで近代文学展示会が行われた。この『ボヘミアン詩社』は昭和三十年二月に前記三君に依って結成され今日まで詩誌二号まで発行している。又今日まで『山野抜渉』（谷間に落ちているロヌンを拾いに）、『文学研究』（石川啄木宮沢賢治）等の二回の行事が行われている。

又この近代日本文学展示会へは本校山中校長先生の殉情詩集（佐藤春夫）、落梅集（島崎藤村）、邪宗門（北原白秋）等の文庫が展示された。

共同募金行わる

十月に入り赤い羽根共同募金が全国いっせいに行われ市内の街角にも街頭募金が市民の協力を求めていた。

さて本校にも学校募金が来た。今までは半強制的な募金であったが半強制的であっては募金精神そのものに反するとのことで、今回からは、生徒会、青少年赤十字団郵便友の会等が中心になって校内自由募金が行われた。

初の自由募金でその成果が注目されていたが、募金額は昨年を少々下まわる程度、明年は助け合い精神をもっと徹底したいもの。

五行アンケート

一、趣味
二、愛読書
三、好きな食物
四、尊敬する人
五、自慢出来る物

数学担当　有住　孝

一、音楽、スポーツ
二、特になし
三、カレーライス、すき焼、果物
四、沢山いますので書ききれない
五、なし

回転黒板寄贈さる

去る九月十七日、佐藤又男氏（盛岡市大通り二丁目）より御子息俊幸君（慶応高一年）の中学卒業を記念して、回転式黒板が寄贈された。同黒板は図書館に常置し、諸種の会合に使用される。

編集後記

◇窓外に雪をみながら物してるのが運動会記事、これが避けがたき学校新聞の宿命というやつか。運動会後に一回、文化祭後に一回、冬休み前に一回、これが頭初の予定だったが……ままならぬものだ、非力の程をしみじみと感じさせられる。とにかく色あせたニュースになって申訳ない。なにしろ手が足りなすぎる。それに肝心な時にやれ、アチーブだ中間考査だ、模試だと障害が続き遅延に拍車をかけてくれる。いきおい残業また残業が続く。師走のお月さまとも大部親しい友達になってしまった。

◇三年生から一切を任せられてからもう二度目の編集な訳だが、なんとも新味を出せないで苦慮して見映えのするものを、斬新な企画をと気ばかり焦せるのだが……みなさんからのキタンなき御批判を仰ぎたい。

◇我々出版委員及び新聞部員は、前記の様に大いに頑張っているわけだ。今度の四十二号にも記事としてのせておいたが、今年も新聞コンクールに於て最優秀賞を得たことは我々に、一層がんばって、来年も又、という気持をおこさせる諸君の協力をお願いする。

【映画紹介】

居酒屋

（解説）仏自然主義文学の巨匠エミール・ゾラが一八七七年に発表した『居酒屋』を文芸作品の脚色では仏映画界にあってその右に出る者がないといわれた『禁じられた遊び』の名匠ルネ・クレマン監督が五三年の『しのび逢ひ』以来発表の最新作で主演も戦後独映画界随一の名優『かくて我が恋は終りぬ』に主演し本年度ヴェニス映画祭で最優秀女優演技賞に輝くマリア・シェル、『バラ色の人生』のフランソワ・ペリエの二人に有名なシャンソン歌手アルマン・メストラルが助演するという渋い演技力を持った地味な顔触れを揃えた所に十九世紀後半のパリの庶民生活の雰囲気と、いつの世にも変らない女性の悲劇を盛り上げようとするクレマン監督の野心の程が伺われる作品である。

（物語）朝になった。ジェルヴェーズは窓際に坐って待っている。昨夜からランチェは帰らないのだ。こんなことは初めてだった。界隈一の好男子だと常に自慢していたランチェが帰らないのだ。………今から百年程前パリの下町での話である。しかしジェルヴェーズはパリ女ではない。勝気で真面目で働く事をいとわない若い田舎女だった。十四でランチェと一緒になったが二人の子供まで持ちながらランチェは彼女を正式な妻として入籍しようとしなかった。その後ランチェに裏切られながらも勝気なジェルヴェーズは挫けず働いたその甲斐あってか貧しくはあったが真面目な屋根職人クポーと結婚することが出来た。彼女は始めて正式な妻として迎えられたのである。世帯を持った日の二人には七スウの金しかなかったが、彼女の身のうちには泉のような勇気が溢れ出て来るのだった。二人は身を粉にして働き遂に六百フランもの金を貯めることが出来二人の間にはナナも生れた。彼等は希望に燃えて年来の夢の実現にとりかかった。一軒の店を借りて洗濯屋を開こうというのだ。しかし好事魔多し、思いがけぬ災難に二人の幸福と希望は一瞬にして崩れてしまった。それはクポーがあやまって屋根から落ちて大怪我をしてしまったのだ、クポーは生命を取止めたがこの怪我人の世話をし彼の分だけ余分に働かねばならぬ彼女にはもう店を開く余裕等はなくなってしまったのだ。………　（K）

冬将軍の到来に
備えて
体育堂の
アノラック
ジャンバー
の御用意を
藤沢体育堂

セイコー舎新型入荷
伝統と信用を誇る
大橋時計店
材木町　TEL 793

古書籍と雑誌
売りよく買いやすい
東光社書店
盛岡市紙町　（上の橋ギワ）

就職・受験期に備え
各種優良参考書多数入荷
材木町　東山堂支店
蛍雪時代
高校時代
高校コース
｝毎月13日発売
TEL 2430